

位置し、上位ではないまでも、一応、全国水準に到達していることがわかる。ところが、新成就値（4教科平均学力偏差値－総合学力偏差値≪総合知能対応学力偏差値≫）は－10と低く、アンダーアチーバーの一群に属し、強い学業不振に陥っているといえる。

表3 知能検査と標準学力検査結果表

昭和55年5月実施 G中学校1年

No.	氏名	知能			国語		社会		数学		理科		教科		学級順位	学年順位	総合学力偏差値	新成就値
		偏差値	段階	指数	偏差値	段階	偏差値	段階	偏差値	段階	偏差値	段階	平均	段階				
1 A	クリミチノチミメユチヒミアフユリミヨマミ	52	3	103	69	5	54	3	65	5	48	3	59	4	10	40	51	8
2 B		51	3	102	56	4	47	3	48	3	54	3	51	3	23	108	51	0
3 C		55	4	108	61	4	51	3	61	4	51	3	56	4	13	57	54	2
4 D		55	4	108	57	4	51	3	57	4	53	3	55	4	51	68	54	1
5 E		51	3	102	53	3	48	3	46	3	51	3	50	3	27	124	51	-1
6 F		57	4	111	53	3	48	3	59	4	51	3	53	3	19	92	55	-2
7 G		48	3	97	50	3	41	2	45	3	54	3	48	3	30	140	49	-1
8 H		52	3	103	58	4	48	3	53	3	49	3	52	3	20	99	51	1
9 I		33	1	73	37	2	41	2	37	2	42	2	39	2	40	191	38	1
10 J		52	3	103	54	3	52	3	48	3	48	3	51	3	26	118	51	0
11 K		57	4	111	64	4	67	5	68	5	46	3	61	4	9	30	55	6
12 L		47	3	95	51	3	40	2	47	3	35	2	43	2	34	171	48	-5
13 M		49	3	98	58	4	54	3	58	4	44	2	54	3	16	82	49	5
14 N		65	5	124	56	4	51	3	47	3	50	3	51	3	24	112	61	-10
15 O	51	3	102	65	5	54	3	67	5	63	4	62	4	8	24	51	11	
16 P	59	4	114	59	4	50	3	54	3	50	3	53	3	17	84	56	-3	
17 Q	67	5	127	69	5	72	5	66	5	56	4	66	5	3	7	62	4	
18 R	42	2	87	45	3	45	3	41	2	38	2	42	2	37	180	44	-2	
19 S	55	4	108	59	4	60	4	59	4	51	3	57	4	12	71	54	3	
20 T	45	3	92	43	2	42	2	35	2	41	2	40	2	38	186	47	-7	

次に、教科間の差異をみると、国語は4の段階で満足できるが、社会、数学、理科は3の段階にとどまっている。

国語以外の教科については、各教科の問題の難易度、誤答の分析や学年・学級の得点傾向などをみながら、満足できる成績が得られなかった原因を追求する必要がある。もし、教科のある領域が、学年・学級全体として落ちこんでいる傾向にあれば、教師側にも責任があるので、指導法の反省をし、日常の指導で、この点に力を入れるべきである。

② 学習適応性検査(AAI)の活用

学業不振の要因を教師の側から反省することも必要であるが、学業がふるわない理由のなかに、子供の側に多くの要因が潜んでいる場合がある。

多くの場合、このような子供たちは、学業生活の初期の段階につまづきを